



地域への感謝の気持ちを入めた俳句を披露



思い思いに風船を飛ばす出席者

田耕小学校 141年間ありがとう

取り組んできた俳句を披露し、出席者全員で校歌を斉唱。最後に500個の風船を飛ばし閉校を惜しみました。在校生からは「学校がなくなると寂しいけど、滝部小学校で新しい友達ができるのが楽しみ」といった声が聞かれました。

2月22日、田耕小学校の閉校記念式典が行われ、3月末で141年間の歴史に幕を閉じました。卒業生など約350人が詰めかけた式典では、6年生4人が、これまで

しものせき トピックス

Shimonoseki Topics

『今から始まる あらたなまちづくり』

くりシンポジウムが市民会館で開催されました。協働のまちづくりについての基調講演の後、先進地である宇都宮市と松阪市のまちづくり協議会の方が活動事例を紹介しながら熱心に聞いていました。

今年1月から「下関市住民自治によるまちづくりの推進に関する条例」が施行され、新たなまちづくりが始まりました。

2月22日、「住民自治によるまちづ



宇都宮市のまちづくり協議会の活動事例紹介

2015下関文化 らく〜ざ(楽座)

関ゆかりの方々に講師として迎え、文学、音楽、映画、歴史、食文化などをテーマに、20講座を開催。どの講座にも多くの市民が参加し、普段聞くことのできない貴重な話を耳を傾け、多彩な下関文化を楽しみました。

3月7日、「2015下関文化らく〜ざ(楽座)」がシームール下関で開催されました。今年もさまざまなジャンルで活躍している地元在住者・出身者など下

山本譲二さん 肝炎検査を呼び掛け

山本さんは、広く下関市民へ肝炎に対する正しい知識の啓発や肝炎ウイルス検査を呼び掛けました。機関や唐戸保健センターで受けられます。成人保健課 ☎231-1093(5)に申し込んでください。

厚生労働省が進めている「知って、肝炎プロジェクト」のスペシャルサポーターを務める下関市出身の歌手・山本譲二さんが2月19日、市役所を訪れました。



女子力アップ講座
(写真左から 演出家の武部忠夫さん、アナウンサーの佐藤けいさん・伊藤明日香さん)



山本さんから啓発グッズを受け取る中尾市長

海響館だより ～うみのひびき～

ペンギン村オープンから5年の間に、フンボルトペンギン21羽、ジェンツーペンギン9羽、キングペンギン2羽、イワトビペンギン1羽とたくさんのヒナが誕生しました。これはペンギンにとって飼育環境が適切という証なので、飼育スタッフとしては大変うれしいことです。

現在開催中のペンギン村5周年記念特別企画展「ペンギンウォッチング～カワイイのその先へ～」では、フンボルトペンギンの人工育雛（人の手でヒナを育てること）を展示しています。人工育雛を見ていただくのは初めてのことで、ヒナのかわいい姿を間近でご覧いただくとともに、野生のペンギンを守るために必要な技術として知っていただくことを目的としています。



フンボルトペンギンのヒナ



人工育雛によるエサやり

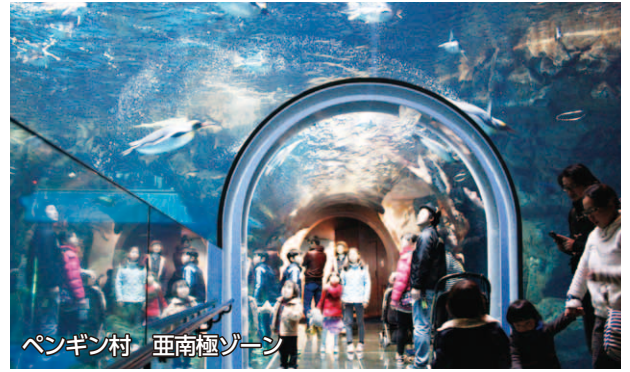
今後は国内ではまだ例のないペンギン類の人工授精の成功を目指すなど、ペンギンの飼育技術をさらに磨いていきたいと思えます。

閩海響館 ☎228-1100

海響館ペンギン村 5周年記念イベント

3月1日、ペンギン村がオープン5周年を迎えました。5周年の当日、海響館ではマスコットキャラクターのペン太とその仲間たちが迎え、子どもたちは大喜びで写真を撮ったり触れ合ったりして、楽しく過ごしていました。1階では特別企画展「ペンギンウォッチング～カワイイのその先へ～」を開催中。卵を温める陸地の姿や、泳ぐための翼、体の秘密などを楽しく紹介しています。

3月1日、ペンギン村がオープン5周年を迎えました。5周年の当日、海響館ではマスコットキャラクターのペン太とその仲間たちが迎え、子どもたちは大喜びで写真を撮ったり触れ合ったりして、楽しく過ごしていました。1階では特別企画展「ペンギンウォッチング～カワイイのその先へ～」を開催中。卵を温める陸地の姿や、泳ぐための翼、体の秘密などを楽しく紹介しています。



ペンギン村 亜南極ゾーン



ペン太のお出迎えに大喜び!!

「地域の防火・防災の充実に尽力した」として、長府地区婦人防火クラブ会長の内野和子さんが、一般財団法人日本防火・防災協会から会長表彰を受けました。内野さんは平成15年に長府地区婦人防火クラブの会長に就任し、現在は山口県消防クラブ連合会と下関市婦人防火クラブ連合会の会長も務めています。長府地区婦人防火クラブは、長府大火を教訓として昭和40年に発足しました。「戦前戦後を通じて下関市最大の火災」として語り継がれる長府大火は、昭和22年10月17日に長府土居の内町で発生。火は周囲の町にも燃え広がり、1234世帯、2406人の被災者と

安心安全なまちづくりにつながる、地域への温かい思い

多数の負傷者を出し、9万4100平方メートルを消失しました。同クラブは大火の記憶を忘れず家庭での防火の徹底を呼び掛け、今年で50周年を迎えました。現在は、定期的に防火・防災の巡回広報を行う他、山火事防止立看板の設置や各種防災教室に参加して炊き出し訓練なども行っています。今後の目標は、活動を継続して地域の人たちの防火意識をさらに高めていくこと。「クラブが100周年を迎えることができるよう、若い会員と一緒に次世代に活動をつなげていきたい」と語る内野さんからは、地域への温かい思いが伝わりました。

日本防火・防災協会会長表彰を受賞

うちの
内野
和子さん

